



大和重工<5610>、MBOで株式を非公開化



大和重工は11日、MBO（経営陣による買収）で株式を非公開化すると発表した。田中宏典社長が設立したTコーポレーション（広島市）がTOB（株式公開買い付け）を行う。大和重工は、工作機械・鋳物部品を中心とする産業機械関連と鋳物ホーロー浴槽などの住宅機器関連を経営の両輪とする。製品の競争力強化や販売体制の再構築に向け、中長期の視点で抜本的かつ機動的な施策を実行するには非公開化が望ましいと判断した。買付代金は15億9000万円。

買付価格は1株につき1620円。TOB公表前営業日の終値1124円に44.13%のプレミアムを加えた。買付予定数は98万1638株。下限は所有割合41.24%にあたる54万2900株に設定した。筆頭株主の広島運輸（広島市）が所有する18.32%と、第2位株主の田中社長が所有する7.10%の合計25.43%はTOBに応募しない。

買付期間は11月12日～12月23日の30営業日。決済の開始日は12月27日。公開買付代理人はSMBC日興証券。

大和重工はTOBに賛同し、株主に応募を推奨することを決めた。TOBが成立すれば、同社の東証スタンダード市場への上場は廃止となる。

大和重工は東証スタンダード市場の上場維持基準の一つである流通株式時価総額（10億円以上）を大きく下回り、上場廃止の可能性があった。TOBを通じて少数株主に株式の売却機会を提供することが合理的な選択だったともしている。

大和重工は1920年に広島市で瀬良商工として設立。その後、1939年に大和（やまと）重工、1944年に大和重工業、1951年に現在の大和（だいわ）重工に社名を変更した。1961年に東証2部に上場した（2022年4月に東証スタンダード市場に移行）。